

つあるような気がします。

日本を深く洞察しておられた司馬遼太郎氏は晩年「日本はこのままでは必ず滅びる」と繰り返し言われていました。敗戦後、日本は世界の大国となりましたが、私たちの業界は戦後官僚と政治屋に牛耳られて泥沼に落ち込んだ状態です。一方、医療病の結果、医師と治療費は毎年増え続けるのに、一向に病氣と病人は減るどころか増えるという珍現象で

す。私たちの大先輩が歯科医を大量生産して世に送り出してもらったおかげで、私たちは青息吐息の生活をしています。歯科医のストレスはあまりにも大きく、子弟を歯科医にさせたくないという思いも分かるこのごろです。杜撰極まりない医療制度を改善しないかぎり、百年河清を待つより仕方がないのでしょうか。

▷昭和2年生



## カミカミ亭にゆうし?

岐阜市・西村 悟

この数年、岐阜市歯会の成人口腔保健委員として、岐阜市の「やろまいか!! 今日から変える生活習慣」という事業で、「糖尿病と歯周病について」と題して公民館でお話をしています。最初は「何を話せばいいんやろう」とだいぶ悩みました。糖尿病をコントロールしていない患者さんが抜歯されて生命の危険にさらされているのを、病院歯科勤務のときに経験した者としては、啓発も大切にしていこうと考え、歯周病、糖尿病ともに近場で講演会があると努めて参加し、いろんな講師の先生に資料をもらってスライドを組み上げました。

去年、木沢記念病院糖尿病友の会「みのかも会」にも招かれて、お話ししてきました。



高座名「カミカミ亭にゆうし」の前で講演する筆者

呼んでいただいた高見和久先生と加藤千恵看護師の顔をつぶすわけにはいけないと思い、がんばりました。その結果、高見先生に「内容がおもしろかった」と最高の賛辞をいただきました。医院にあった試供品の歯みがき剤を賞品に、後半はクイズ形式を取ったことがとても受けたようでした。来場者にも恵まれ真剣な眼差しで聞いていただき、何とか努めることができました。50人ほどの聴衆でしたが、一緒に行ったアシスタントによると、若いお医者さんや看護師さんも参加されていたそうで、講演後はたくさんの質問で最後まで盛り上がりました。

これを機に人前でもあがらないよう、岐阜市が開いた「落語を始めてみよう」という講座を受講しました。僕は日大歯学部ですが、同い年の日大商学部で柳家喬太郎、日大芸術学部で立川志らく（歯と口の健康フェスティバルで講師として来会した立川らく朝の師匠）がいるせいか落語は大好きです。この前も「松坂屋」で開催した寄席で二人からサインをもらいました。

写真にある「めぐり」に「寄席文字」で書いてある「カミカミ亭にゆうし」は岐阜市の講座講師の永縄照良先生（岐阜落語を聴く会、三輪中）にいただいた高座名です。いつ

もは待合室に貼ってあるのですが、講演の時はお守りとして持っていきます。受付が患者さんに「あのカミカミなんとかってなんや？」

と聞かれることも多いようです。

▷昭和 38 年生



## フィリピンボランティア活動に参加して

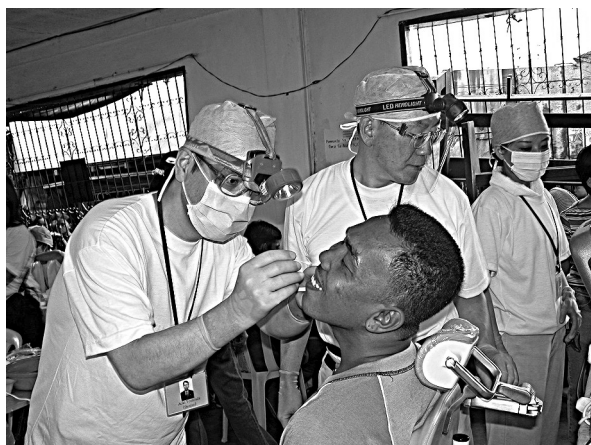
関・亀山 正道

1998 年来訪れているフィリピンマニラ市、貧困の人達の暮らしは変わっていません。経済発展しつつある階層と同居する貧困の地で歯科無料診療に携わって 10 数年経過していますが、昨年（2010 年）10 月 26 日東京オークラホテルで私が参加している“AGUDAA-V-フィリピン”が「保健文化賞」を受賞しました。第一生命（株）主催、厚生省、朝日新聞厚生文化事業団、NKH 厚生文化事業団の後援で昭和 24 年から続いている事業で、長年保健衛生に貢献した団体の中で選抜されました。今回が第 62 回目で通算 916 件の受賞者、今回は 15 件受賞しその中の 1 件です。翌日は天皇陛下の拝謁を賜り「継続する力」をいただきました。

愛知学院大学歯学部同窓会が主催で毎年 5 月、8 月の連休 2～3 日を返上し、比国（フィリピン）の姉妹校であるイースト大学の先生らと比国の貧困区に出向き歯科医療無料活動を続けてきました。当初 5 年間はスモークマウンテンでゴミを収集している人たちやス

トリートチルドレンを対象に抜歯を主体に医療活動をしてきました。その後、ケソン市のスラム街、果樹農園の田舎、マニラ近郊と場所を変えながら活動をしています。

虐げられた貧困、経済的な余裕のない人たちの明日は過酷なものです。現場に入って患者さんの痛みを解放できるのはわれわれの使命ではないかと思えます。われわれの歯科医療技術が比国で活かされること、これが「大河の一滴」であったとしても、前向きの国際医療貢献だと思えます。国情により貧困との格差が大変大きく価値観、考え方が違い歯がゆい所もありますが、外国人だからこそ見える所を“AGUDAA-V-フィリピン”が機会や場を提供できると思えます。毎年、歯科医師は 20 人前後、衛生士 5～6 人、技師数人が公募により参集し、事前に準備をして本番に望みます。実際は野戦病院的になることもあります。毎年改善を加えてより良いサービス提供を模索しています。比国の若い先生らとの親睦は未来を語る絶好の場であり



フィリピンマニラ市でのボランティアの様子